

たくさんの宝物が入ったみかん

大阪府大阪市立泉尾北小学校 六年 柴崎 采

最近、みかんの消費量が減少している。その理由には、ライフスタイルの変化や輸入フルーツの増加などがあると考えられている。中には、みかんの皮をむくのが面倒だからという人もいるらしい。

私は、冬になるといつも祖父母の家に行つて、今は亡き祖父にたくさんみかんの皮をむいてもらっていた。それが当たり前だと思っていた。

祖父が亡くなると、みかんは、自分でむくようになった。みかんをむいていると、いつも祖父のことを思い出す。祖父もみかんが好きだったので祖父の分までたくさん食べた。毎年、足が黄色くなるくらいまで食べた。いつもみかんをむいてくれていた祖父に恩返しがしたかった。

みかんには、長い歴史やたくさんの種類がある。だから私にとってみかんとは、思い出や歴史、育ててくれた農家さんなどのたくさんの思いがまつている宝のようなもの。宝箱を開けなければ宝は、もらえない。みかんやほかの果物も同じように皮をむくことで初めて果物を食べることができる。その果物を食べることで「おいしい」と感じ、その思いが農家さんに届く。しかし、「皮をむくのが面倒だから」と言つて果物を食べない人がいるが農家さんは、日本の人々がおいしく、笑顔で食べられるようにそれよりも大変なこと、面倒なことをしている。だから、食べる方も育ててくれた農家さんの気持ちを守つてあげてほしい。

このように、果物には、たくさんのものがまつている。でも、まだ人々は、何がまつているか知らない。その宝箱の中身を私は、日本中いや、世界中の人々に伝えていきたい。

みんなで宝箱を開けて農家さんに想いを伝えよう。